

乃木坂スクール#08 「負担」から「希望」へ ～発信力と戦略で社会を変える～

初めて聞いた「均てん化」という言葉、膨大なデータを誰が、どう活用するのか

NPO シニアライフ情報センター 小瀬 有明子

「均てん化」という言葉を、初めて聞きました。

ネットで調べると、「生物がひとしく雨露の恵みにうるおうように」という意味で、がん医療においては、全国どこでもがんの標準的な専門医療を受けられるよう、医療技術などの格差の是正を図ることを指しますとありました。

また、

主に医療政策の分野で用いられる語で、医療サービスなどの地域格差などをなくし、全国どこでも等しく高度な医療を受けることができるようにすることを指す語ともありました。

さらには、

地域における医療機関の役割分担の見直し、がん医療専門の医療関連職種の育成、医療機関の連携などを図り、患者さんが望む時期に適切な医療を受けられるような環境整備が必要とされています、とも書かれていました。

どのような地域に住んでいたとしても、必要としている人にすべからく適切な治療が受けられる環境が整えられることは素晴らしいことだと思います。

若く、まだまだ人生半ばの人たちにとって、地域格差によって助けられる命も助けられないのは理不尽なことでしょう。

しかし、「均てん化」の必要性は、年齢によって違ってくるのではないのでしょうか。

高齢者にとっての「均てん化」は、本当に素晴らしいことでしょうか。

ガンがあったとしても、発見される前までは普通に生活ができていた人が、治療を受けることによって、暮らしの質が下がる場合もあるのではないのでしょうか。手術を受けることによって、寝たきりの期間が長くなったり、経管栄養の必要性が出てきたりということもあるのではないかと思うのです。

人は自分が高齢になったときのことを想像し、さまざまな病気を発症したとき、どの程度までの医療をしてもらいたいかを書いておく必要があるようにおもいました。

せっかくの医療資源を適切に利用するためにも、きちんとした意思表示をしておくことが大事なのではないかと今回の講義を受けて思いました。

因みに、私は延命治療は必要ないと思っています。

貴重な講義ありがとうございました。